

委員会活動を中心とした看護部の役割

看護部長 大政 信子



院外報第1号を発行するにあたり看護部の紹介をいたします。

当看護部は、看護師284名、准看護師8名、看護補助(クラークを含む)57名で構成されています。この看護職員が9つの病棟とICU、透析、手術部、中央材料室、2N特殊検査部、外来の各部署チームで力を合わせて、質の高い看護が提供できるよう努力し、実践しているところです。

また、各委員会活動も活発に行っています。総務、教育、業務を3本柱とし、看護の質の向上に一役かっています。総務では、患者サービス、医療安全、感染防止対策、褥瘡対策、転倒転落対策を担当し主に患者様に直接かわることを中心にしています。患者サービスでは、御意見箱に寄せられた貴重なご意見を真摯に受け止め、患者満足度調査を1年に1回行い、少しでも満足していただけるよう工夫改善をしております。医療安全では、患者様に安全に安心して治療していただけるようニアミスを未然に防ぐ努力をしています。感染防止対策では感染を早期にキャッチし感染拡大しないようにしています。転倒転落チームでは事例を検証して同じような事例

で転倒転落をおこさないよう努めています。教育では看護職員の教育、新人教育、臨床実習指導、看護研究を担当し看護の質を上げるために主に研修を企画実施しています。教育は、職員教育をはじめ地域の4校の実習指導も熱心に行っています。看護研究は当番制ではありますが院内発表を行い1~2例は院外で発表ができるよう取り組んでいます。業務では看護記録、看護基準、検査手順、業務改善を担当し、実際看護をするにあたって病棟間の統一をはかり、均一な看護ができるよう基準や手順をつくりそれにともなって必要があれば業務改善を行います。

以上看護部の委員会を中心に紹介しました。看護師不足で十分に手が行きとどいていないかもしれませんが、看護部一同張り切って進んでいます。



3月の新人研修の様子

地域 連携室 だより

当院における地域医療連携室のご紹介

松山市民病院地域医療連携室 三谷 直紀

院外広報誌「えいらい」発刊にあたりまして、この紙面をおかりしまして日頃お世話になっております先生方に松山市民病院におけます地域医療連携室についてご紹介させていただきます。

さて、当院では病床数538床のもと地域に根差した基幹病院としての役割を十分に認識したうえで、より良い医療を患者様に提供すべく地域の病院や診療所の先生方とも密接に連絡を取り合っており、病診連携また病々連携に取り組むことで基幹病院としての役割を果たせます様に努めて参りました。

平成15年に地域医療連携室を発足させて頂いて以来、連携室の利用件数は発足当初のご利用数に比べますと、現在では全体の紹介患者様のうち約半数近くの患者様に地域医療連携室をご利用頂いており、検査の事前予約をはじめ入院の手配等を含め円滑に当院での対応をさせて頂くことが可能となってきました。



このことは先生方からのご協力とご支援によるものであり、この場をおかりしまして、お礼申し上げます。

当院での医療機器の共同利用におきましても地域医療機関の先生方からの放射線科機器によるCT検査やMRI検査等の各種検査、また消化器内視鏡検査、超音波検査のご依頼にも迅速に対応させて頂いておりますので、今後とも活用下さい。

最後に、当院では各診療科のトピックス、当院の特徴ある治療法、NSTをはじめとする各医療チームの活動内容等を報告すべく勉強会を定期的に開催しておりますので、多くの先生方にご出席頂き、先生方との連携の構築を図って参りたいと思っております。

今後とも、先生方からのご要望・ご期待に副えるべく地域医療連携室としての機能の充実を図っていく所存でありますので、よろしくお願い申し上げます。